

1 単元名 あまりのあるわり算

2 本単元の目標

- (1) 「あまり」のある除法の意味や、あまりはわる数よりも小さいことを理解し、あまりのある除法の計算をすることができる。 (知識及び技能)
- (2) あまりのある除法の意味や計算の仕方を、あまりのない除法や乗法と比べて考えることができる。また、あまりの処理の必要な問題場面に応じて、あまりの処理の仕方を考えることができる。 (思考力・判断力・表現力等)
- (3) あまりのある除法の計算の仕方を、既習の学習と関連付けて考えようとする。また、あまりのある除法を、進んで生活や学習に生かそうとする。 (学びに向かう力・人間性等)

3 単元(題材)の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「あまり」の意味、あまりと除数の大小関係、及びあまりのある除法の計算の仕方を理解し、計算することができる。	既習の除法と関連付けて、あまりのある除法でも乗法九九を使って答えが求められることを考え説明したり、あまりの処理の必要な問題場面で、あまりの処理の仕方について考え説明したりすることができる。	あまりのある除法の意味や計算の仕方について、既習の学習を生かして考えようとする。また、あまりのある除法の場面を身の回りから見出すなど、生活や学習に生かそうとする。

4 単元について

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領の第3学年A数と計算(4)ア「除法の意味について理解し、それらが用いられる場合について知ること。また、余りについて知ること。」と位置付けられている。

本単元では、あまりのある除法の場面について理解し、その計算の意味と方法について理解できるようにする。既習のわり切れるわり算と同様に、第2学年で学習した乗法九九を用いれば計算できることや、あまりはわる数よりも小さくなることをとらえることができるようにすることがねらいである。また、あまりについての捉え方を深め、場合に応じたあまりの処理ができるようにし、日常生活の様々な場面でも使えるようにすることが重要である。

(2) 児童観 (**人)

令和*年**月**日 (**人調べ)

単元・題材にかかわる事前調査	
1 計算しましょう。(正答者数)	
① $16 \div 4$ (**人) ② $48 \div 8$ (**人) ③ $56 \div 7$ (**人)	
2 あめが24こあります。	
① 1人に4個ずつ分けると、何人に分けられますか。下の図の続きを完成させましょう。(**人)	
② 1の式と答えを書きましょう。 式 (**人) 答え (**人)	
3 【未習事項】計算しましょう。 $38 \div 6$ (**人)	
4 【未習事項】25本の鉛筆を1人に3本ずつ分けます。何人に分けられて何本あまりありますか。	
式 (**人) 答え (**人)	

本学級の児童は、全体的に真面目に学習に取り組むことができる。自分の考えを友達に説明する学習を繰り返し行うことで、自分の考えを言葉や図を使って説明することが少しずつできるようになり、交流活動で自分の考えを伝えられることに喜びを感じている児童もいる。しかし、説明をノートに書くなどの指導はこれまでも継続的に行ってきたが、自分の考えを文章化することが苦手な友達や考えを写すだけにとどまることもある。また、計算技能面では、個人差も大きく、乗法九九や既習のあまりのない除法の定着が不十分な児童もいる。

(3) 指導観

指導にあたっては、除法の意味について具体物の操作や絵・図等を使って、乗法との関係を考えさせながら理解させていきたい。既習事項と関連させて考えることや自分なりの考え方や解き方を図や式、言葉で表現する児童をさらに増やしていきたいと考える。また、プログラミング的思考の観点から思考ツールを使い論理的思考力を育ませる。自分の考えを述べることにまだ抵抗のある児童もいるので、話をしっかり聞くことやペア学習、グループ学習を取り入れ自信を持たせるようにしたい。また、計算の技能の反復練習に取り組むことが、第4学年「わり算の筆算」の学習へとつながるため、確実に定着を図りたい。

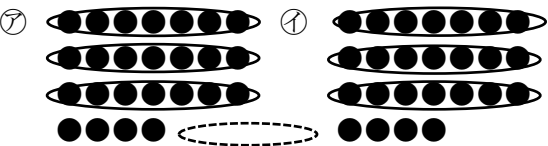
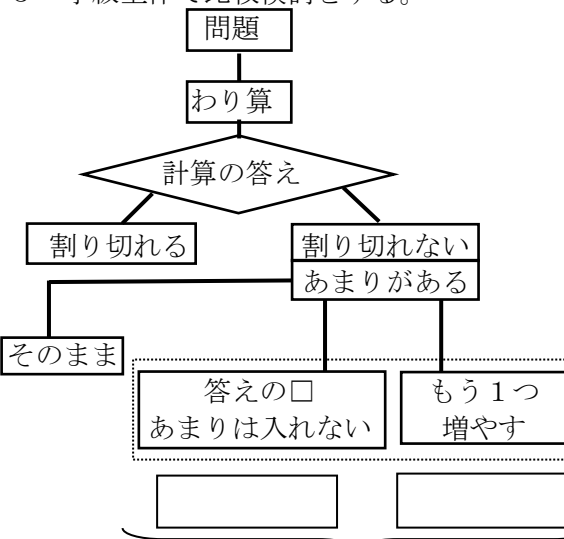
5 単元の指導計画（7時間扱い）

次	時	学習内容・活動	知	技	思	態	評価方法・留意点等
1	1	あまりの意味と計算の仕方を理解する。				○	態：既習の学習を生かして考えようとしている。【発言・ノート】
	2	あまりと除数の大小関係について理解する。	○				知：あまりが除数より小さくなることを理解している。 【発言・ノート】
	3	等分除の場面において、あまりの意味や計算の仕方を理解する。			○		考：乗法九九を使って答えが求められることを見出し、説明している。【発言・ノート】
	4	答えの確かめ方を理解する。	○				知：答えの確かめ方を理解している。【ノート】
2	5 本時	問題場面に即してあまりの処理の仕方を考え、問題を解決する。			○		考：あまりの処理の必要な問題場面で、あまりの処理の仕方を考え、説明している。 【発言・ノート】
	6	練習問題を通して、あまりの処理の仕方を理解する。	○				知：問題場面に応じたあまりの処理の仕方を理解している。 【観察・ノート】
3	7	まとめ		○			知：学習内容を適用して、問題を解決することができる。 【発表・ノート】

6 本時の学習

- (1) 目標 問題場面に即してあまりの処理の仕方を考え、問題を解決することができる。
 (2) 準備 ホワイトボード、ワークシート、ステップチャートに使用するカード
 (3) 展開

分	学習活動・内容	教師の支援（◎は評価）
0	1 問題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ◎7人がけの長いすがあります。 クラス25人全員がすわるには、いすは何台あればよいでしょうか。 ④ゲームをして7人グループを作ります。 クラス25人では、何グループ作れるでしょうか。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・長椅子についての理解を深めるために、挿絵を提示する。 ・問題解決に必要な情報を整理するために問題文を読み、わかっていることと求めていることに線を引くよう助言する。 ・どちらも同じ式と答えになることをおさえる。
3	2 見通しをもつ。 (1) 立式し、計算する。 式 $25 \div 7 = 3$ あまり 4 (2) 答えの見通しをもつ。(予想される児童の反応) ◎3台必要で4台あまる。 3台必要で4人あまる。 3台必要、4台必要、7台必要 ④3グループ、3グループできて4人あまる	<ul style="list-style-type: none"> ・前時との相違点を明確にするために、計算した後に全体で確認する。 ・「3台あまり4人」「3グループあまり4人」でよいか発問し、ゆさぶりをかける。 ・わかりにくい児童には、問題文に戻り、求められていることをおさえるよう声掛けをし、あまりの処理に着目させる。

分	学習活動・内容	教師の支援 (◎は評価)
10	3 学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">あまりをどのようにすればよいか考えよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> 本時の課題に気付くように、あまりのある除法なのにあまりがいくつかと問われていないという前時との相違点を明確にする。
12	4 自力活動をする。 (1) 図で考える。  <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> ⑦ 全員座るためには、残り4人が座るもう一台椅子が必要。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> ⑧ 4人あまるが、3人不足なのでグループは作れない。 </div> </div> (2) グループ活動を行い、 のカードに短い言葉でステップチャートの続きを考える。 <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%;"> ⑦ 4人座れない 3台では足りない 4人が座る椅子を1台増やす $3+1=4$ </div> <div style="width: 45%; border-left: 1px dashed black; padding-left: 10px;"> ⑧ 3人足りない グループが作れない 1つ減らす あまりは考えない </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 今までに使った説明の仕方を振り返るように声掛けを行い、考えが表現できるようにする。 自分の考えをかくことにつまずいている児童には、まず図をかくように声を掛ける。 言葉で表現したい児童には、場面に合った図をもとに説明させたい。 ステップチャートを活用し、根拠に基づいた考え方ができるようにする。 前時までに出てきたワードを使ったステップチャートを教室に掲示しておく。 何も書いていない のカードを用意しておき、あまりの特徴について各グループのホワイトボードに条件を整理して表すことができるようにする。 机間指導を行いながらカードに書く文字を支援する。
20	5 学級全体で比較検討をする。  <p style="text-align: center;">ここに4(2)のグループ活動で出てきたカードを貼っていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 最終的には、学級で1つのステップチャートを作るため、各グループのホワイトボードを掲示して比べることで、よりよい言葉を探しやすくする。 今までの答え方「3台必要で4人あまる」では違うことに気付かせ、本時ではどんな言葉がふさわしいか児童から出てきた言葉で のカードに当てはめていく。 本時の「あまりの処理」に焦点化するためにあまりを考えるまでの流れを振り返りながら進めていく。 <p>◎あまりの処理の必要な問題場面で、あまりの処理の仕方を考え、説明している。 (発言・ノート)</p>
38	6 本時のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">問題文に合わせて、答えに1を足したり、そのままにしたりする。</div>	<ul style="list-style-type: none"> できるだけ児童の言葉を使ってまとめられるようにステップチャートを参考にしてもよいことを確認する。
43	7 本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 気付いたことや分かったこと、友達の考えでよかったことなどを書くように助言する。

(4)本時の評価の生かし方

[C と判断する児童への手立て]

- ・あまりの処理を、図をもとに確認させる。
- ・前時までの内容を想起させて、あまりをそのまま書くのではなく、図から「全員が座るためにどうすればよいか」や「グループを作るためにはどうすればよいか」を考え、答えにたどり着かせる。

[A と判断する児童の状況]

- ・全員が座るために必要な長椅子の数を求めることや、グループを作るためにはどうすればよいかを図と式と言葉を関連付けながら、根拠を明らかにして説明している。